霜月：第８話「修学旅行は学業を修める旅行である」

当初６月 20 日に予定されていた修学旅行が，地震の影響で５ヵ月後の 11 月 19 日･20 日の２日間で行われました。月曜日に出発したことで，観光地は比較的空いており，紅葉シーズンで色とりどりの木々に囲まれ，６月にはない光景を目にすることができました。また，キッザニア甲子園では，通常２・３か所の「企業」体験しかできないこともありましたが，最低でも４か所，多い児童では６・７か所回ることができて，とても充実した活動になりました。

予定より５か月後に修学旅行が開催されましたので，**そのメリットを最大限生かしていけると考えました。**例えば，６月と比較して，①**学級のメンバーの結びつきがより強固になっている**ので，高いレベルでの集団行動が求められること，②１日目の京都では鹿苑寺金閣と清水寺，奈良では東大寺を参拝しますが，いずれも社会科の授業で学習済みですので，**ガイドさんのお話をより理解しながら聞く**ことができること等が挙げられます。また，小屋浦小学校と一緒に行きますので，卒業が近い分，**中学を意識して仲良くする気持ちが強まる**と考えておりました。

実際，ガイドさんの話を聞く時には，集中して聞き，バスレクなど，楽しむべきときには楽しむことができたように思います。また，集団で移動するときには，目に飛び込んでくる建物や風景などに気を取られがちですが，**隊列を崩さずに整然と歩くことができた**ように思います。宿舎の中でも，**他のお客さんの迷惑にならないように**一列で静かに行動していました。ホテルの方や旅行会社の方にも行儀のよさをほめていただきました。

子どもたちの作文を読んでみますと，「キッザニア甲子園では，**お金をかせぐのって，こんなに大変なんだ**ということも分かりました。これからも，お金は大切に使おうと思います。」「みんなとの仲も深められ，**小屋浦小学校の子たちとも友達になれた**し，とても思い出に残ったと思いました」「**パソコンやインターネットなどで調べてみても，出てきていないとても不思議なことがたくさんあり**，たくさんのことを知ることができました」「11 月に，修学旅行があった方がよかったと思いました。**卒業まで短いのでその分，濃い思い出になった**ように思います」

子どもたちは，「修学旅行は学業を修める旅行である」という指導を担任から受けていましたが，この意味をよく理解して行動できたことが作文を読んでもよくわかりました。

校長　寺岡　成希